



クスノキ



豊中市立第十四中学校
 学校だより
 令和5年(2023年)
 6月12日
 発行責任:校長 石井 武

★3年修学旅行、2年キャンプ、1年校外学習

各学年、大きな行事を通じて大なる成長!

3年生は5/24(水)~26(金)、2泊3日の行程で長野県白馬村および

金沢市方面への修学旅行を実施、雄大な信州の大自然のもと、貴重な体験学習を通じてクラスや学年の絆を深めることができ、大変充実した有意義な3日間となりました。限られた準備期間の中で修学旅行成功に向け、約束事を決めたりみんなが楽しめる本格的な(?)ビデオを作成したり、縁の下で頑張ってきた学級委員やスタッフのみなさん、本当にお疲れさまでした。そして、「クラスや班の仲間同士関わりを増やし、つながりをさらに深める」「自分たちで企画し実行し、楽しむ力」を身につける」などの目的をしっかりと果たした46期生全員の成長を大いに称えたいと思います。



●雪遊び体験：1日目午後、梅池高原のゴンドラとロープウェイを乗り継いで標高約2000m、残雪があるスポットでクラス毎に雪合戦で大盛り上がり、気温は約6℃、風が冷たかったですが、信州北アルプスに十四中生の歓声が響き渡りました。

●ラフティング体験：2日目午前、ウエットスーツにライフジャケット、ヘルメットというスタイルでパドルをしっかりと持ち、6~8人ずつ1艘のゴムボートに乗り込み、インストラクターの指示のもと、次々と姫川を下っていきます。川の流れの速さと冷たい水に歓声がわきました。みんなの気持ちをあわせてパドルを漕ぎ、ゴールをめざします。



●EXアドベンチャー：2日目午後、ハイエレメントでは、人がもっとも恐怖を感じるという約8メートルの高さの木立ちにゆれる板やネットなどの課題に対し、「一歩を踏み出す勇気」をふりしぼり、悲鳴とともに「ガンバレ!」などの仲間からの励ましの声が岩岳にこだましました。また、ローエレメントでは、お互いの協力と助け合い、みんなの力を合わせて課題を乗り越えていくことの大切さを学ぶことができました。3つのわ(和・輪・話)がキーワードでした。



●また、学年レクやクラスレク、金沢市内散策、おみやげ購入や食事タイムなどを通じて、仲間のやさしさや今まで気づけなかった素敵な個性がわかり、クラスの団結力と学年の連帯力が

大きく育ちました。みんなで創る楽しさと感謝の気持ちを大事にして、よりいっそう素晴らしい学年、さらに素敵な46期生に成長してくれることを心から楽しみにしています



2年生は6/1(木)~2(金)、1泊2日の行程で滋賀県近江八幡市方面へのキャンプを実施、1日目は琵琶湖博物館での班活動を中心とした館内見学とグループワーク、その後、水蒸焼き陶芸の里においての陶芸体験、ろくろを使って湯飲みやお茶碗、お皿などを作成しました。1か月後に完成品が学校に届くとのことです。素敵な作品が待ち遠しいですね。

そして夜はメインイベントのキャンプファイヤー、各クラスがこれまでの練習の成果を大いに発揮しみんなで盛り上げ、楽しむことができました。特にラストの「ひまわりの約束」は学年全員の大合唱でとても感動的だったようですね~47期生の絆が深まるとともに最高の思い出となって良かったです!



2日目は大雨の中でしたが、BSC ウォータースポーツセンターでのカヤック体験、屋内でのロープワークやチームビルディングに取り組みました。楽しく有意義な活動を通してクラスや学年の団結が一段と強まりました。十四中の要として、47期生らしくよりいっそう協力とまとまりのある学年集団を築いてくださいね!



1年生は6/1(木)、万博記念公園への校外学習を実施、班行動、公共

マナー、クラス・学年の親睦を深めることなどを目標に掲げ、中学校生活初めての校外での活動でしたが、全員が集合時間を守り、モノレールでのマナーもとても良かったと聞いています。一人ひとりが自分の役割をきっちり果たして、学級委員や体育委員が中心となってクラス対抗のゲームや学年レクなどに一生懸命に取り組み、笑顔いっぱい

で楽しむことができたことはプラスとなって今後に生きてくるはずです。

校外学習を通じて新しい友達を作ったり、仲良くなれるきっかけができた人も多いと思います。明るく元気で、仲間を大事にできる48期生のますます成長してくれる姿をこれからも大いに期待しています!



★1学期期末テストに向けて、計画的に頑張りましょう!

1学期期末テストまで2週間となりました。今回は、1年8教科、2年7教科、3年9教科と教科数が多く、準備にも時間をかける必要があります。授業の集中と家庭学習の充実、そして計画性が学力向上の基本です。中間テストでの反省点を振り返り、自分を高めるためにレベルアップをめざしましょう! 十四中生全員の健闘を心から祈っています!



	6/26 (月)			6/27 (火)			6/28 (水)		
	1限	2限	3限	1限	2限	3限	1限	2限	3限
1年	理	国	美	英	社	保体	数	技家	
2年	社	国	技家	理	英		数	保体	
3年	国	英	保体	理	数	技家	社	音	美

★ひとりで悩まず相談してね！～スクールカウンセラーのお知らせ～

豊中市は中学校区に1人ずつスクールカウンセラーを配置しています。
 十四中には、本多晶子先生が毎週金曜日の11時45分から17時に、生徒や保護者との相談活動を行っています。校区小学校の児童や保護者も対象です。相談は原則予約制（1回50分）で、金曜日の次の時間帯に1階相談室で行っています。



- ① 11:45～ ② 12:45～ ③ 13:30～
 ④ 15:00～ ⑤ 16:00～ ⑥ 17:00～

相談希望がある生徒や保護者のみなさんは、担任・副担任の先生か教頭先生まで連絡してください（電話予約可）。学習面や友達関係、学校のことや家庭のことなど、遠慮なく相談してみてくださいね。カウンセラーの先生と話してみることで、少し心が楽になるかもしれません。

「ひとりで悩まず、まずは相談してみましよう！」

★十四中生、がんばっています！PART2～花の苗植え～

6/9（金）放課後、全クラス整美委員さんやPTAの施設委員さん、学校事務員さんが中心となって、正門付近の花壇の花の苗植えを行ってくれました。お疲れさまでした、ありがとうございました！

十四中の強みの一つは、花や樹木の環境の美しさだと思います。しかし、ただ見ているだけでは、環境は維持できません。水やりや雑草抜き、土の世話など見えないところでの努力や支えがあるからこそ、花や木は元気に育ってくれます。生徒や保護者のみなさんそして教職員の三者で花いっぱい緑あふれる素敵な学校環境づくりを続けていきましょう！



★十四中生、＜卒業生も＞がんばっています！～日本陸上～

6/4（日）大阪のヤンマースタジアム長居において第107回陸上日本選手権大会兼世界選手権代表選考会が行われ、男子100mで大阪ガスの坂井隆一郎選手が10秒11で初優勝を飾りました。

坂井選手は十四中の35期生で現在25歳、十四中時代も陸上部で熱心に練習に取り組んでおられたそうです。本校卒業生が日本一に輝く姿は大変うれしく、誉れに感じます。ぜひ、世界選手権やオリンピックなど世界を舞台に活躍してもらいたいですね。

先輩のがんばっている姿から元氣と勇氣をもらって、私たちも目標に向けて励んでいきましょう！



（右ページの新聞記事参照）

君たちが歩くとき

みやざわしょうじ
宮澤章二



君たちが歩くとき
君たちは一人ではない
隣りにも 前にも 後ろにも
君たちの仲間がいる

君たちの心のカメラは
大自然のよろこびをとらえ
人間同士を結びつけるきずなの太さを写す

間際のすべてが 汗だらけの顔で笑う
間際のすべてが 信じあう声で歌う
その顔にかがやく 君たちの希望
その声が呼ぶ 君たちの未来

君たちが歩くとき
君たちは一人ではない
隣りにも 前にも 後ろにも
同じ道を行く仲間がいる
互いに支え合う仲間がいる

「行為の意味/ 青春前期のきみたちに」

ごま書房新社より

★保護者のみなさまへ・・・



- 6/19(月)19時から校長室において「学校運営協議会」を開催します。
本協議会は保護者及び地域の住民等の学校運営への参画ならびに支援・協力を促進し、学校運営の改善、信頼関係の構築をめざして毎学期実施するものです。会議の傍聴を希望される場合は、15日(木)17時までに校長まで電話でお申し込みください。
- 7/1(土)おやじの会主催のクリーン作戦(10時30分から清掃活動、12時頃からバーベキュー大会)を実施します。多くの保護者・地域の皆様のご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

陸上 日本選手権 4日

第107回大会最終日は、世(向かい風0.9秒)の日本界選手権(8月、フタベスト)の新記録で3連覇を果たした。泉の代表選考会を兼ねて、大阪・谷と、13秒30で2位の高山峻野(ゼンリン)が代表に内定。同100秒は坂井隆一郎(大阪駿介(住友電工))が、13秒04ガスが10秒11(向かい風0.2秒)で初優勝。女子50000秒は田中希実(ニューパラン)が15分10秒63で制し、2年連続で15000秒との2冠を達成した。同2000秒は、100秒を2連覇した君嶋聖梨(土木管理総合)が23秒17(無風)で初優勝。(記録は1位)



男子100秒で優勝した坂井

坂井万感の初優勝

男子100.02秒差で競り勝つ

男子100秒の坂井は長所を生かし、序盤から先行した。終盤に柳田大輝(東洋大)に迫られたが、0.02秒差で逃げきった。初優勝を喜んだ。「出場を迷ったが、地元の大阪で優勝したい気持ち、自信を深める日本一となった」

ちが大きかった

学生時代はほぼ目立った成績を残さなかった。関大4年生の時に、日本学生個人選手権を初めて制した。その年の日本選手権で6位入賞し、大学卒業後の所属先が決まった25歳。こういう状態でも勝ち切れたのは地方がついた証拠。昨夏に続く世界選手権出場に向け、